

夏休み経済教室 大阪会場記録

8月8日(月)大阪会場 第一日(高校向け)

うす曇。熱い日が戻ってきている。真夏日になる。

会場は、JR天満駅近くの天満研修センター。天満という街は、日本一長い商店街アーケードで有名である。駅前には昼から開いている居酒屋があり、大阪の下町風の雰囲気の色濃く漂わせている街のようだ。そんななか、四年目の大阪でのセミナーが開催された。初日は、111名が参加された。

第一講義 榊原宏司先生「高校教科書で教える金融・証券の仕組み」

名古屋、福岡と基本的に同一なので内容は省略する。

質疑では、合同会社と株式会社の違い、会社合併時の従業員の帰属などがだされ、それぞれ回答がなされた。また、経営者の責任(自然人)と株式会社(法人)の関係をどう考えるかなどの問題提起もなされた。

第二講義 大竹文雄先生「高校教科書で教える経済の仕組み(市場経済)」



主な内容は以下のとおりである。

教科書は、市場経済のメリットを十分に語っていない。競争は弱肉強食ではない。生産者も消費者もメリットを受ける。どちらか一方がメリットがあるのではなく、両者のメリットが最大になるのが市場経済である。

経済学のストーリーで語る必要がある…分配問題と効率性を分けて考えることが必要

均衡価格はいやいや売ったヒト、いやいや買ったヒトの価格が一致した場合

価格と価値は、均衡点以外のヒトは一致していないのである

トマトである理由…在庫が効くか・効かないか、実際に市場取引がある

シフトは、三次元以上のものを二次元にしたために発生する 例: $X = aP + b * \text{人口}$ 人口が変化するとか、bに相当する変数(嗜好、気温など)が変化したケースなどがそれにあたる

シフトの方向は左右でも上下でもかまわない。理解してもらえばよい。

豊作貧乏…消費者の余剰が減っていることが書かれていない、この場合の農家は独占である(みんなで生産制限をして供給をしないという行動をしている)

質問: 電力会社は市場の失敗、政府の失敗? - 両方である

第三講義 西村理先生「大学入試問題を通して経済を教える」

冒頭に、関西の三つの大学（同志社、立命館、関大）の、入試に関する評価を入れて解説をはじめられた。これも地元ネタである。

内容は、他会場と基本的に同一なので、省略する。

質問：相対取引のケースはどんなものがあるか？ 自動車ディーラーでの値引交渉のケースがそれにあたる（一物多価のケースがそれにあたる）

第四講義 篠原総一先生「地理歴史を経済で読み解く」

内容は、他会場と基本的に同一なので、省略する。

以上一日目のまとめである。100人を超える参加者が集まり、熱心に講義を聴講していた。また、第二講義の大竹先生の内容と、第三講義の西村先生の内容が、丁度よく重なり、難しいミクロ経済学のエッセンスをしっかりと伝えることができたセミナーとなったようだ。篠原先生の歴史に関しても、情熱あふれる講義に感銘を受けたとの感想がきかれた。

大阪第二日（8月9日）中学対象

前日と同様の、真夏日の大阪でのセミナーとなった。参加、108名。

第一講義 野間敏克先生「中学新教科書を使って教える経済の仕組み」

内容は福岡とほぼ同じであるが、各論の項目ごとに、まとめの箇所が新たに付け加えられ、講義の内容がすっきり理解できるようになった。その部分の概略を以下掲載する。

<経済学の発想のまとめ>

前提（市場はすぐれもの）→市場の失敗（まずは自助努力、つぎが政府の登場）→社会の変化、環境変化（政府の失敗、情報化や高齢化など時代の変化）→じゃあ仕組みを変えよう

この図式で、様々な経済問題を考えてみると問題が整理できると思う

教科書を読み解き、物語を作ってみることが大事ではないか

銀行の運用している45%は証券と債券…間接金融と直接金融の理解で間違えないこと

日本は間接金融から直接金融という記述は、疑問→銀行や企業が株式や債券を運用している→株式や債券は即直接金融ではない

間接金融のポイントは、資産の転換がされること（短期から長期へ、低リスクから高リスクへ）

利子の教え方は難しい（時間と価値の観念の問題）…人生観や成長度との関係もある

貨幣の役割は難しい…本質、信用創造、信頼など

第二講義 大倉泰裕先生「新学習指導要領にもとづく中学校社会科公民的分野における経済の

考え方・教え方」

基本は他会場と同じなので、省略する。

第三講義 三枝利多先生担当「実践報告:体験型授業の試み」



なぜこのような授業になったか

最初の学校の出来事…3秒で胸倉をつかまえられた

初期の授業…導入だけは面白い、でも義理で聞かせるような授業だった

研究会にでてゆく…そのなかから活動型の授業を作り出した

これまでに開発した事例の中から、体験型授業の実例を実感していただきたい

実践事例：交換と分業

「無人島シミュレーション」を参加の先生と実践しながら、体験型授業の実際を紹介された。

先生方は、グループで楽しそうに参加しながら、体験型の実践授業について学ばれている様子だった。

第四講義 シンポジウム「中学における経済の授業の進め方」



問題提起者として、三枝先生、奥田先生のお二人が担当。司会と進行、コメントを大倉先生が担当されて進行した。

① 倉先生の前説

②三枝先生の補足（15分）

これまでに開発してきた事例の紹介

「どんぐりマーケット」ゲーム

「家計シミュレーション」ゲーム 840万円（70万円）家族4人（これは疑問）

「家計シミュレーション」商談ゲーム

「家計シミュレーション」マネープラン・ゲーム（銀行協会）

「企業設立シミュレーション」ゲーム（独自）

「牛井屋シミュレーション」ゲーム（経済教育センター）

③奥田先生からの実践紹介

ネタ教材の意味：学校知と日常知 そのギャップを繋ぐものとしての「ネタ」

ネタの根拠…身近なもので経済（学問知）の背景にあるもの

「地元ネタ」が一番だが、もっと一般的なものがよい

例：小学校の教科書にのっているもの…新美南吉{手袋を買いに}（松井本からゲーム理論）

小さなときに読んだ本や歌など…「アリとキリギリス」（福祉問題）

時事問題…チリの落盤事故（希少性、ルール、分業とチームプレイ、コミュニケーション、弱っているものから救出、正義感）蓼沼真一ジュニア新書

「住宅シミュレーション」は酷な面がある（一戸建て住宅を建てる）…地域的な特性

では、全員が経験したものは何？→回転寿司

経済の授業の全体展開を紹介

「回転ずし」教材の流れの紹介をされた

<質疑>

Q：時間は大丈夫、そうなるとう勉強は塾ということにならないか？

A 1 三枝：振り返りの時には教科書を使う。全く使わないことはない。大事なのは指導要領からのリンクではないか。自分の経験の説明。

A 2 奥田：帝国の教科書を使っているので、問題は少ない。教科書をベースにした応用問題である。書き込み式プリントを用意している。つながりが重要。ストーリー性を重要視している。

Q：大倉先生への質問、国民主権を教えるということは、それを生徒に伝えるのか？

法教育と経済教育との接合するような教材はありますか？

持続可能な社会とは現代のような状況では、何を意味しているのか？

A：それぞれ解答あり。

東西対決というような、やや過剰に刺激的な課題設定であったが、三枝先生も奥田先生も、目の前の生徒たち、学校のおかれた状況や課題を突破するための実践をされていることがこのシンポジウムから良く分かる内容であった。東西の違いより、共通性が浮かび上がるシンポジウムであった。

大阪でのセミナーは、両日で計 219 名の参加者となり、熱気あるセミナーとなった。

記録とコメント 新井 明